

公益財団法人 日本バレーボール協会

第6期・2015年度事業計画

(2015年4月1日～2016年3月31日)

1. 事業方針

本会は、わが国におけるバレーボール界を統轄し代表する団体として、グローバル化、ボードレス化、情報化、少子高齢化などの急激な環境変化の中、バレーボール競技の普及、振興および発展を図り、児童・青少年から高齢者に至るまで、国民の心身の健全な発達、維持および人間性の向上に寄与し豊かな社会の形成に貢献するため、本年度は以下の基本方針に基づき事業を推進する。

更に、2015年1月に制定したミッションステートメント（宣言）「JVAはバレーボールの“つなぐ力”を世界に育みます」の本会組織内への浸透を図り、併せてバレーボールに携わる者すべての、心と技・体、自分と人、人と社会の健全な「つながり」を育てていく。

全日本女子は2014年8月に開催したFIVBワールドグランプリファイナルにおいて2位となり、第22回大会までで初のメダルを獲得した。イタリアにて開催された世界選手権では7位となり第3次ラウンド進出を逃した。Team COREでは、ジュニアチーム（U-19）がアジア選手権において2位、ユースチーム（U-17）がアジア選手権において優勝し、2015年に開催される世界選手権の出場権を獲得した。

全日本男子は9月から10月に開催されたアジア競技大会にて第2位となった。Team COREでは、ユースチーム（U-18）が2位となり2015年に開催される世界選手権の出場権を獲得した。ジュニアチーム（U-20）は5位となり世界選手権の出場権を逃すことになった。

ビーチバレーボール競技は、2014年度からシリーズA（男女各24チーム参加）を全国5開催地にて開催した。国民体育大会での正式競技導入へ公益財団法人日本体育協会への働きかけを行った。

これからも日本代表の選手たちが活躍することで日本国民に夢や勇気、感動をお届けすることを重要な目標とし、全日本男女チーム、ビーチバレーボールを含め、スポーツ界全体の活性化に貢献する。

本年を本会の基盤強化の年と位置づけ、バレーボール界の発展に向け下記重点課題に関し全組織を挙げて取り組む。

本年度は以下の基本方針に基づき事業を推進する。

➤ バレーボール力の強化

「すべての道が 2020 東京オリンピックに通じる」ことを念頭に

1. 代表チームから若年有望選手まで、2014 年度に構築した一貫した選手強化体制により、2020 年を念頭に置いた強化を実施する
2. 2016 リオデジャネイロオリンピックへの出場権獲得に向け邁進する
3. ビーチバレーボール選手の発掘・育成・強化および競技会の企画・運営に全力で取り組む
4. 選手の発掘・育成のために、指導者の資質向上と指導カリキュラムの刷新を推進する
5. JVA ゴールドプランを通じて、未経験者・経験者の小・中学生など若年層競技人口の増加・拡大を図る

➤ 組織力の強化

1. 迅速な意思決定のため、組織強化、改革、情報収集、人材登用を行っていく
2. 経費削減とマーケティング力の強化により収益増を図り、財務基盤体質を強化する
3. JVA 加盟団体との情報共有、意思疎通を図っていく
4. バレーボール界における法令の順守と暴力・体罰の根絶に向けた対策を推進していく

➤ 国際力の強化

1. 国際バレーボール連盟およびアジアバレーボール連盟への参画・連携を強化する
2. 日本バレーボールのプレゼンスを向上し、バレーボール先進国として事業を効果的に推進する

※国際バレーボール連盟（以下、FIVB という。）、アジアバレーボール連盟（以下、AVC という。）公益財団法人日本バレーボール協会（以下、JVA という。）

2. 事業内容

（1）競技力向上事業及び競技力向上に係る日本代表選手団国際大会派遣事業

①日本代表チーム及び選手の育成・強化事業

全国の社会人、大学生、高校生の中から選抜された有力選手による日本代表チームを編成し、国際競技力向上を図るため以下の諸事業を行う。

1) 男子・女子シニア日本代表チーム強化合宿

本年度、男子はワールドリーグファイナル進出とアジア選手権優勝、女子はワールドカップで 2 位までに入り 2016 リオデジャネイロ五輪出場権獲得、および FIVB ワールドグランプリ 2015 優勝を目標として選手強化合宿を行う。

■男子：国内合宿・味の素ナショナルトレーニングセンター（以下、NTC という。）を主会場として、80～90 日間実施。

海外合宿・セルビアほかで 20 日間実施。

■女子：国内合宿・NTC を中心に 50～60 日間実施。

注) シニアチームとはトップレベル選手で構成された日本代表チーム。

2) 男子・女子 U-23 日本代表チーム強化合宿

第 1 回アジア U-23 選手権大会において、本年度中に開催される第 2 回世界 U-23 選手権大会の出場権を獲得し、さらに世界選手権においてメダルを獲得することを最大の目標として選手強化合宿を行う。

■男子：国内合宿・NTC を中心に 20 日間実施

■女子：国内合宿・NTC を中心に 40 日間実施

3) 男子・女子ユニバーシアード日本代表チーム強化合宿

本年度は、第 28 回ユニバーシアード競技大会（2015/光州）（2 年に 1 回開催）でのメダル獲得を最大の目標として選手強化合宿を行う。

■男子：国内合宿・NTC ほかで 40 日間実施。

■女子：国内合宿・NTC ほかで 30 日間実施。

注) ユニバーシアードチームとは、主に大学生を中心に構成される日本代表チーム。

4) 男子・女子 Team CORE 日本代表チーム強化合宿

Team CORE とは、2020 年東京オリンピックに向けて集中的に強化していく選手、男子 10 名、女子 8 名で構成されており、各選手の年齢に合うアンダーエイジカテゴリーの大会などに出場し、国際経験を積み、本大会につながる中期的強化活動を実施していく。

■男子：国内合宿・NTC ほかで 30 日間実施。

海外合宿・欧州などにて 25 日間実施。

■女子：国内合宿・NTC を中心に 25 日間実施。

海外合宿・中米にて 10 日間実施

5) 女子ジュニア日本代表チーム強化合宿

本年度は、第 18 回世界ジュニア女子選手権大会（U-20）でのメダル獲得を目標として選手強化合宿を行う。

※国内合宿・NTC を中心に 20 日間実施

注)ジュニアチームとは、1996 年 1 月 1 日以降に出生した選手で構成される日本代表チーム。

6) 男子・女子ユース日本代表チーム強化合宿

本年度は、第 14 回世界ユース選手権大会でのメダル獲得を最大の目標に強化合宿を

行う。

■男子：国内合宿・NTC ほかで 30 日間程度実施。

■女子：国内合宿・NTC を中心に 25 日間実施。

注)ユースチームとは男子が 1997 年 1 月 1 日以降に、女子が 1998 年 1 月 1 日以降に出生した選手で構成される日本代表チーム。

②将来性を有する選手の発掘及び育成強化事業

1) 全国小学生・中学生・高校生身長選手発掘事業

将来有望な長身選手の発掘、育成、強化を目的に、公募および推薦によるオーディションを行い、選抜した有望選手の育成強化合宿を実施する。

③競技力向上にかかるバレーボール技術の調査研究及びスポーツ医・科学の調査研究事業

1) 日本代表選手の体力測定評価、測定結果に基づくトレーニング処方 of 立案と提言を行う。

2) 日本チームとの対戦が想定される外国チームの戦力掌握を行う。

3) トレーナーの育成、教育を行い、日本代表チームに派遣する。

4) 日本代表チームにドクターを派遣するとともに薬剤の手配を行う。

5) アンチ・ドーピングの啓発と普及及び研修を行う。

6) 日本開催の国際大会及びビーチバレーボールを含む主要国内大会で日本代表選手を中心にドーピング検査を実施する。

④日本代表選手団の国際大会派遣事業

選手強化合宿の効果を検証するとともに、実戦（試合）を経て得られる技術、戦術ほか総合的な競技力向上を目的として以下の各大会に日本代表選手団を派遣する。

1) シニア日本代表チーム

■男子：ワールドリーグ・2nd グループ（開催国：日本・韓国・フランス・チェコ、開催期間：5/29～7/5 及び決勝 Final 4 7/10-11、Final 6 7/15-19）
第 18 回アジア男子選手権大会（イラン、7/30～8/8）
ワールドカップ（日本、9/8～9/23）

■女子：第 18 回アジア女子選手権大会（中国、5/20～5/28）
モンテルーバレーマスターズ（スイス、5/26～5/31）
ワールドグランプリ（タイ、日本、中国、アメリカ、7/3～7/26）
ワールドカップ（日本、8/22～9/6）

2) ユニバーシアード日本代表チーム

■男子：第 28 回ユニバーシアード競技大会（韓国、7/3～7/13）

■女子：第 28 回ユニバーシアード競技大会（韓国、7/4～7/12）

3) U-23 日本代表チーム

■男子：第1回アジア U-23 男子選手権大会（ミャンマー、5/12～5/20）

第2回世界 U-23 男子選手権大会（UAE、8/24～8/31）

■女子：第1回アジア U-23 女子選手権大会（フィリピン、5/1～5/9）

第2回世界 U-23 女子選手権大会（トルコ、8/12～8/19）

4) ジュニア日本代表チーム

■女子：第18回世界ジュニア女子選手権大会（U-20）（キプロス、7/3～7/12）

5) ユース日本代表チーム

■男子：第14回世界ユース男子選手権大会（U-19）（アルゼンチン、8/14～8/23）

■女子：第14回世界ユース女子選手権大会（U-18）（ペルー、8/7～8/16）

(2) 国際大会開催事業及び国際貢献・交流事業

①国際大会開催事業

1) FIVB ワールドリーグ 2015

FIVB は男子バレーボールの世界一を決める本大会を毎年開催している。本年の日本開催は、インターコンチネンタル・ラウンド（グループ2）全6週のうちホーム3週を FIVB と協力して開催する。

- ▶ 岡山大会(第1週) 開催期日：5月30日（土）、31日（日）
会 場：桃太郎アリーナ
対 戦 国：日本 対 チェコ（1試合×2日）
- ▶ 京都大会(第2週) 開催期日：6月6日（土）、7日（日）
会 場：島津アリーナ京都
対 戦 国：日本 対 フランス（1試合×2日）
- ▶ 大阪大会(第4週) 開催期日：6月20日（土）、21日（日）
会 場：大阪中央体育館
対 戦 国：日本 対 韓国（1試合×2日）

2) FIVB ワールドグランプリ 2015

FIVB は女子バレーボールの世界一を決める本大会を毎年開催している。本年の日本開催は、予選ラウンドの第2週（プールE）を FIVB と協力して開催する。決勝ラウンドはアメリカで開催。

- ▶ さいたま大会 開催期日：7月10日（金）～12日（日）
会 場：さいたま市記念総合体育館
参 加 国：日本、中国、イタリア、ドミニカ共和国
試 合 数：計6試合（1日2試合×3日）

3) FIVB ワールドカップバレーボール 2015 男女大会

FIVB が 4 年に 1 回開催する FIVB ワールドカップバレーボール 2015 男女大会 (以下、ワールドカップという。) を FIVB と協力して開催する。ワールドカップは、バレーボール界 3 大大会の一つで、その翌年開催となるオリンピックの出場権が付与される最初の大会である。

- 女子大会 開催期間：8 月 22 日 (土) ～9 月 6 日 (日)
 開催都市：東京、松本、仙台、岡山、名古屋、小牧
 参加国：12 カ国
 - 日本 (開催国)
 - 2014 女子世界選手権優勝国 (アメリカ)
 - 各大陸予選を勝ち抜いた 10 カ国試合数：延べ 66 試合 (1 日 3 試合×11 日×2 会場)

- 男子大会 開催期間：9 月 8 日 (火) ～9 月 23 日 (水・祝)
 開催都市：広島、浜松、大阪、富山、東京 (2 会場)
 参加国：12 カ国
 - 日本 (開催国)
 - 2014 男子世界選手権優勝国 (ポーランド)
 - 各大陸予選を勝ち抜いた 10 カ国試合数：延べ 66 試合 (1 日 3 試合×11 日×2 会場)

②国際貢献・交流事業

1) FIVB 及び AVC 役員等派遣事業

世界のバレーボール界の統轄組織である FIVB 及びアジアの統轄組織である AVC の理事職及び競技運営、審判規則、指導普及、医事ほか各種委員会の委員として本会の代表を派遣、世界のバレーボール界の発展に尽力し国際的な貢献を行う。

本年は、FIVB 及び AVC 理事会ほか各種会議に当該メンバーを派遣するとともに、国際レベルの指導者講習会への講師派遣、各国で開催される世界大会、アジア大会ほかに競技役員、審判員ほかを派遣する。

2) バレーボールバンク事業

発展途上国へボールほかバレーボール用器具を寄贈して競技の普及を図り、同時に様々なバレーボール情報を提供し、発展途上国のスポーツ振興に寄与する。併せて同事業の戦略的展開を通じ、寄贈対象となった各国のバレーボール協会 (NF) との友好を結び、連携強化を図る。

(3) 講習会開催事業、指導者、審判員等養成及び資格認定・登録事業

① ゴールドプラン関連事業

近年の競技人口の減少は憂慮する事態になっており、バレーボールの将来を考えると緊急且つ最大の課題となっている。特に小学生、中学生が減少している。その原因としては、少子化、スポーツのニーズの多様化、指導者不足等々、様々なことが考えられる。本会では競技人口拡大のこの取り組みを“ゴールドプラン”と称することとし、今年度は下記の事業を行う。

また、バレーボール教室については、本会の内外で行われている各事業の内容を検証、整理し、中期計画を作成する。

1) バレーボールをやってみよう～Vリーグ選手と一緒にバレーボール教室

本会では、小学生のバレーボール未経験者及び初心者を対象に、Vリーグ選手が参加してバレーボール教室を毎年各地で開催しているが、全国10会場で実施する。

(参加者見込数・2,500名)(開催地については調整中)

2) 全国小中学生一貫バレーボール教室

小中合同のバレーボール教室を開催する。一貫指導の充実とバレーボール人口の増加を図るものである。全国3会場で実施する。(参加者見込数・720名)

(開催地については調整中)

3) 保育園等でのソフトバレーボール実践事業

幼児期にソフトバレーボールを通してスポーツの楽しさを伝える環境作りを行うとともにソフトバレーボール指導者の育成を目的としたモニター事業を展開する。本事業は全国9ブロック単位で実施する。

4) 全国小学生バレーボール指導者研修会(参加者見込数・4,800名)

本会では、小学生の指導者を対象として第一次・第二次講習会を毎年各地で開催しているが、平成24年度より実施の第三次講習会を併せ、15都道府県で実施する。

鳥取県、京都府、秋田県、群馬県、宮崎県、岩手県、滋賀県、高知県、岡山県、福岡県、千葉県、(4開催地については調整中)

5) 全国中学生バレーボール指導者研修会

本会では、中学生の指導者を対象として全国中学生指導者研修会を毎年各地で開催しているが、本年度は20都道府県で実施する。(参加者見込数・450名)

北海道、山形県、東京都、群馬県、福井県、京都府、島根県、沖縄県、(12開催地については調整中)

②指導者養成事業

上記のほか各種別の指導者を対象に以下の養成講習会等を開催する。

1) 都道府県別バレーボール指導者研修会

各都道府県の指導者の資質向上を目的に、全国 20 都道府県で開催する。

(参加者見込数・800名)

2) ソフトバレーボールリーダー・マスターリーダー養成講習会

ソフトバレーボールの指導、審判、競技運営ができる指導者の養成を目的に大阪府ほかで開催する。(参加者見込数・800名)

3) 日本体育協会公認上級コーチ、コーチ、上級指導員、指導員・バレーボール専門教科認定講習会

日本体育協会からの受託事業として、上級コーチ、コーチ、上級指導員、指導員の資格取得に向けたバレーボール専門科目の講習会を東京と大阪で開催する。

(参加者見込数・330名)

4) 本会公認講師認定講習会・公認講師研修会・公認指導者研修会

本会が開催する講習会の講師を務める指導者を対象として、認定講習会及びスキル向上のための研修会を東京都・大阪府で開催する。(参加者見込数・50名)

③審判員等養成事業

競技会(試合)における適正な判断と円滑な試合運営を行う審判員及び技術統計判定員を養成するため、以下の講習会等を開催する。

講習会名等	実施期間	会場	参加者数
全国ラインジャッジ・クリニック	27.5(予定)	大阪府	60名
全国6人制審判講習会	28.03.20	東京都	300名
全国9人制審判講習会	28.03.27	大阪府	250名
ブロックA級審判員講習会	27.04.01~08.31	全国各ブロック	950名
技術統計上級判定員認定講習会 スキルアップ講習会	開催日調整中	会場調整中	30名
競技会事前講習会	27.06~27.10	国内競技会開催地	340名
A級審判員研修会(6人制)	27.12(予定)	東京都・愛知県	110名
A級審判員研修会(9人制)	27.11.19~21 27.11.27~29	大阪府(男子) 京都府(女子)	50名 50名

*参加者は見込数

④指導者等資格認定事業

1) 指導者資格認定事業

本会では、バレーボールを正しく、安全に、楽しく指導することで、バレーボールの本質的な素晴らしさを伝えることができる指導者資格として以下の資格の認定登録を行う。

小学生バレーボール指導者資格 ソフトバレーボール・リーダー
ソフトバレーボール・マスターリーダー 公認講師

2) 審判員資格認定事業

本会では、競技会(試合)における適正な判断と円滑な試合運営を行う審判員資格と

して以下の資格の認定登録を行う。

A級審判員 A級候補審判員 B級審判員 C級審判員
レフェリーインストラクター

3) 技術統計判定員資格認定

本会では、競技における技術統計記録法の適正な運用と、各種プレーの評価と判定の統一を行う技術統計判定員資格として以下の資格の認定登録を行う。

技術統計判定指導員 技術統計上級判定員 技術統計判定員

(4) 全国大会等国内競技会開催事業

①天皇杯皇后杯全日本選手権大会開催事業（男女大会）

天皇杯・皇后杯は昭和 25 年(1950 年)に全日本 9 人制選手権大会に下賜されて以来、平成 25 年までの 63 年間、日本国内最高のチームに授与され、また平成 19 年度からは中学生以上のチームならどのチームでも参加できる壮大な大会に生まれ変わったが、本年はその 8 回目として以下の日程で実施する。

都道府県ラウンド：平成 27 年 4 月～7 月 各都道府県内体育館
(1,000 チーム・18,000 名参加見込)
ブロックラウンド：平成 27 年 9 月～10 月 各地域ブロック内体育館
(206 チーム・3,708 名参加見込)
ファイナルラウンド：平成 27 年 12 月 18 日～20 日、26 日～27 日
(1 回戦～決勝) 東京
(48 チーム・864 名参加見込)

②全日本小学生大会（男女大会）

教育的配慮のもとにバレーボールを通じて全国児童の親睦と交流を図ること、バレーボールによる小学生の体力向上とたくましい意欲の養成に努めること、低学年層から正しいバレーボールの基本技術とチームプレーを体得し、楽しいゲームが出来るように指導することを目的に、以下の日程で実施する。

都道府県大会 ：平成 27 年 4 月～7 月 各都道府県内体育館
(2,795 チーム・33,540 名参加見込)
(参考・都道府県内予選を含めると参加は約 7,400 チーム)
全国大会 ：平成 27 年 8 月 11 日～14 日 東京体育館ほか
(都道府県代表 147 チーム・1,764 名参加見込)
なお、昨年より男女混合チームを加えることとなり例年同様、大会と並行して各選手村（宿泊施設）で教育活動を行う。

③全国都道府県対抗中学大会（男女大会）

将来のオリンピック選手発掘と中学生バレーボールのレベルアップを図り、各チームとの交流を通して友情を深めスポーツマンシップの高揚に努めると共に、中学生指導者の研修の場とすることを目的に、本年は以下の日程で実施する。

開催期間：平成 27 年 12 月 25 日～28 日

会 場：大阪市中央体育館ほか（96 チーム・1,440 名参加見込）

④全日本高等学校選手権大会（男女大会）

都道府県予選を勝ち抜いた高校日本一を決める大会として本年は以下の日程で実施する。

開催期間：平成 28 年 1 月 5 日～7 日（1 回戦～準々決勝）

会 場：東京体育館

開催期間：平成 28 年 1 月 9 日～10 日（準決勝・決勝）

会 場：東京体育館（104 チーム・1,872 名参加見込）

⑤秩父宮賜杯・秩父宮妃賜杯全日本大学選手権大会（男女大会）

大学在校生で構成されたチームなら全ての大学が参加できる大会として、本年も以下の日程で大学日本一を決める本大会を実施する。

秩父宮賜杯全日本大学選手権大会（男子）

開催期間：平成 27 年 11 月 30 日～12 月 6 日

会 場：東京都・大田区総合体育館ほか

（チーム・名参加見込）

秩父宮妃賜杯全日本大学選手権大会（女子）

開催期間：平成 27 年 11 月 30 日～12 月 5 日

会 場：愛知県・稲永スポーツセンターほか

（チーム・1,152 名参加見込）

⑥前記各競技大会に加え本会主催、開催地都道府県協会等の主管により、以下の各種別全国大会を実施する。

大会名等	実施期間	会場	参加チーム数・人数(見込)
全日本⑨実業団女子選手権大会	27.07.09～12	鳥取県鳥取市	62 チーム・930 人
全国ママさん大会 (⑨)	調整中	調整中	48 チーム・720 人
全日本⑨実業団男子選手権大会	27.07.24～27	石川県金沢市	67 チーム・1,005 人
全日本⑨クラブカップ女子選手権大会	27.08.06～09	北海道札幌市	62 チーム・930 人
全日本⑨クラブカップ男子選手権大会	27.08.07～10	香川県高松市	67 チーム・1,005 人
全国⑨社会人西ブロック男女優勝大会	27.10.02～05	京都府京都市・亀岡市	96 チーム・1,440 人
全国⑨社会人東ブロック男女優勝大会	27.11.06～09	神奈川県平塚市	96 チーム・1,440 人
全日本⑨総合男子選手権大会	27.11.19～22	大阪府大阪市	52 チーム・780 人
全日本⑨総合女子選手権大会	27.11.27～30	京都府京都市	60 チーム・900 人
黒鷲旗全日本男女選抜優勝大会	27.05.01～06	大阪府大阪市	32 チーム・576 人
全日本クラブカップ女子選手権大会	27.07.30～08.02	岩手県一関市	59 チーム・1,003 人
全日本クラブカップ男子選手権大会	27.08.13～16	大阪府大阪市	67 チーム・1,139 人

全国ヤングクラブ優勝大会	27.09.21～22	大阪府大阪市	98 チーム・1,680 人
以上⑨は9人制大会、その他は6人制大会			
全国ソフトバレー・ファミリーフェスティバル	27.07.31～08.02	石川県白山市	48 チーム・432 人
全国ソフトバレー・シルバークフェスティバル	27.10.10～12	大阪府枚方市	54 チーム・486 人
全国ヴィンテージ8'S交流大会	27.10.23～25	沖縄県那覇市・浦添市	40 チーム・600 人

⑦本会、公益財団法人日本体育協会等との共催により、以下の大会を実施する。

1) 国民体育大会バレーボール競技

日程：平成 27 年 9 月 27 日～30 日 開催地：和歌山県橋本市ほか

2) 日本スポーツマスターズ 2015

日程：平成 27 年 9 月 18 日～22 日 開催地：石川県金沢市

⑧本会、公益財団法人全国高等学校体育連盟等との共催により、以下の大会を実施する。

1) 全国高等学校総合体育大会男子バレーボール競技

日程：平成 27 年 8 月 2 日～8 月 6 日 開催地：大阪府岸和田市

2) 全国高等学校総合体育大会女子バレーボール競技

日程：平成 27 年 7 月 28 日～8 月 1 日 開催地：大阪府岸和田市

3) 全国高等学校定時制・通信制大会

日程：平成 27 年 8 月 3 日～7 日 開催地：神奈川県平塚市

⑨本会、公益財団法人日本中学校体育連盟等との共催により以下の大会を実施する。

全日本中学校バレーボール選手権大会（男女大会）

日程：平成 27 年 8 月 21 日～24 日 開催地：北海道旭川市

(5) ビーチバレーボール事業

①競技力向上事業及び競技力向上に係る日本代表選手団国際大会派遣事業

1) ビーチバレーボール日本代表選手強化合宿

FIVB ワールドツアー出場と各種国際大会出場の日程調整を行いつつ、2014 年度に収穫の実感したブラジル合宿をはじめ効率的な国内外での強化合宿を実施し、2016 年リオ五輪の出場資格獲得を目指す。

■男子：グランドスラム横浜大会事前合宿＝7 日間

海外合宿＝ブラジル 14 日間、アメリカ 21 日間

国内合宿＝14 日間

■女子：グランドスラム横浜大会事前合宿＝7 日間

海外合宿＝ブラジル 14 日間、ベトナム 21 日間、アメリカ 21 日間

■ジュニア男女：国内練習会＝80 日～100 日、

トレーニングキャンプ＝3～10 日間 x 3 回

2) ビーチバレーボール男女日本代表チーム

- ・ワールドツアー（世界各地で4月～12月まで開催）10～12大会に派遣
 - ・第2フェーズAVCコンネンタルカップ（2016リオ五輪第2次予選11月下旬予定、場所未定）
- 3) ビーチバレーボールジュニアクラス男女日本代表チーム
- ・ワールドツアー（10月～12月の数大会に派遣）

②国際大会開催事業

FIVB ビーチバレーボール男女ワールドツアーグランドスラム横浜大会

開催期間：7月20日～26日

場 所：横浜臨港パーク特設会場

参 加 国：世界ランキング上位32チームが出場

（日本は開催国枠とワイルドカード枠で出場）

③講習会開催事業、指導者、審判員等養成及び資格認定

1) ビーチバレーボール指導者講習会

ビーチバレーボール指導者を対象に、2開催地で開催する。（開催地については調整中）
（参加者見込数・70名）

2) ビーチバレーボール審判講習会

ビーチバレーボールの審判員・競技者を対象に、全国審判講習会を開催する。
（参加見込み数・60名）

④全国大会等国内競技会開催事業

1) JVA ビーチバレーボールシリーズ A

日本におけるビーチバレーボール競技確立の一環として、また日本から世界に羽ばたくビーチバレーボール選手の輩出を目的として2014年に創設したビーチバレーボール国内最高峰の競技大会。

2015年度開催地並びに開催期間：

◎開催地（レギュラーレグ）：三重県志摩市＝6月19日～21日、兵庫県南あわじ市＝6月26日～28日、福岡県行橋市＝7月10日～12日、茨城県大洗町＝7月31日～8月2日、福井県小浜市＝8月7日～9日

<JVA ビーチバレーボールシリーズ A ファイナル>

最大の目的である競技の確立と世界レベルで活躍する選手の輩出をより一層活性化し、最大限に引き出していくために、JVA主催大会や海外で活躍するトップ選手が一堂に会して競い合い、更に日本ビーチバレーボール界のモチベーションを高揚させていく。

◎開催地（決勝大会）：大阪府大阪市（グランフロント大阪）＝10月3日～4日

2) 国民体育大会ビーチバレーボール競技（イベント事業）

日 程：平成 27 年 8 月 29 日～30 日

開催地：和歌山県和歌山市（片男波海岸）

大会名等	実施期間	会場	参加チーム数・人数(見込)
ビーチバレーボールシリーズ A (5 大会)	27.06~27.08	三重、兵庫、福岡、茨城、福井	48 チーム・480 人
全日本ビーチバレージュニア女子選手権大会	27.08.07~10	愛媛県伊予市	48 チーム・144 人
全日本ビーチバレー大学男女選手権大会	27.08.08~10	神奈川県川崎市	80 チーム・160 人
全日本ビーチバレージュニア男子選手権大会	27.08.08~11	大阪府阪南市	52 チーム・156 人
ビーチバレージャパン	27.08.14~16	神奈川県藤沢市	56 チーム・112 人
全国ビーチバレー中学生大会 (4 人制)	27.08.16~17	神奈川県藤沢市	64 チーム・256 人
ビーチバレージャパンレディーズ	27.08.20~23	大阪府泉南郡岬町	62 チーム・124 人
ビーチバレーボールシリーズ A 決勝	27.10.03~04	大阪府大阪市	16 チーム・32 人

(6) マーケティング事業

公益事業を安定的に推進するべく、バレーボールの社会的な価値、及び本会が所有する各種プロパティの価値の向上のために適切なプロモーション活動を行い、本会事業の推進に賛同いただいている協賛社とのパートナーシップの強化及び新規協賛社の獲得に向け積極的に活動する。

また、本会が所有する各種標章の無断及び不適切な使用がないように適切な管理運営を行うとともに、本会登録選手の肖像権等の管理運営を行い、無体財産の価値向上に努める。

(7) バレーボール用品・用具の公認・推薦及び公認物品販売事業

競技の公正、安全ほか競技者が安心して楽しくプレーできるように、ボール、ネットほか用品・用具の公認・推薦の認定を行うとともに、競技者及び体育施設等へ、より良い用品・用具が提供されるよう、販売・製造事業者への働きかけを行っていく。

また、公認審判員やソフトバレーリーダーなどに対しては、資格保有者としての自覚を促すため、公認物品の販売を通してその着用を推奨する。

国際大会のバレーボール観戦者においては、観戦を通して国民の一体感や個人のマナーなど、豊かな人間性を育むことを目的に、応援グッズほか本会公認物品の販売を行う。

(8) 出版物等販売事業

バレーボールの愛好者、審判員、指導者をはじめとする多くの国民に対し、最新のルール情報を提供するために、公認ルールブックであるバレーボール 6 人制競技規則、同 9 人制競技規則、ソフトバレーボール競技規則、ビーチバレーボール競技規則を出版販売する。

(9) Vリーグ開催及び開催支援事業

一般社団法人日本バレーボールリーグ機構（以下、Vリーグ機構という。）が主催するVリーグについて、一部大会の開催権を取得し、バレーボールの普及、振興及び本会が行う公益目的事業の遂行に必要な財源調達を図ることを目的として開催する。

同時に、Vリーグ機構が全国各地で開催する大会の競技会運営、適正な判断と円滑な試合運営を行う審判員、技術統計判定員ほかを派遣、Vリーグの開催支援事業を行う。

(10) 地域グループ育成・強化事業

本会の加盟団体である都道府県バレーボール協会及び全国的に組織されたバレーボール競技団体の育成、強化を目的に、団体運営ほか各種の支援を行う。加盟団体の新公益法人制度に伴う移行作業及び法人化準備作業に向け各種の支援を行う。

(11) その他

- ①公益財団法人日本体育協会が推進する国民スポーツ振興事業に対して積極的に協力する。
- ②公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）と東京都が設置した、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会に対して積極的に協力する。
- ③「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」に定められた公益認定の基準を順守するとともに、法人の透明性やガバナンスの確立に注力する。
- ④バレーボール愛好者はもとより青少年や社会人、熟年世代にスポーツを「する」「観る」「支える」楽しさや素晴らしさを伝える広報活動を充実させる。

以上